

コラム 殿様の食卓

二の丸御殿跡の発掘にともない魚や貝が遺物として発掘された。これらは領主の食卓に供されたものと推定されている。

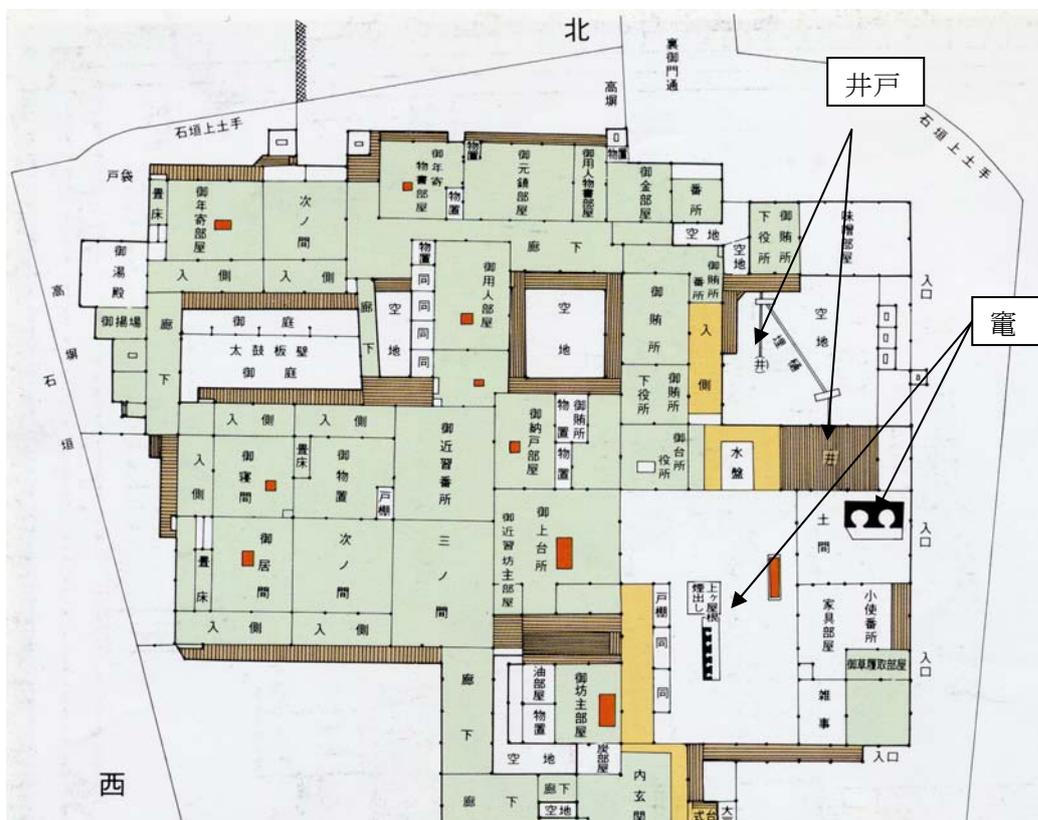
1 魚類

魚の骨は42点出土した。いずれも江戸時代の層から出たもので御殿での食べ残しと考えられている。出土した魚の骨のうち、種名までわかったものはマグロ・黒鯛・スズキ・コイ。

属名のわかったもの、ブリ。科名までわかったものはタイ、イトウダイ・マカジキであった。コイを除いて海の比較的大型の高級魚で後に述べる貝類とともに食膳に供されたものと考えられている。

流通ルートは日本海岸からは糸魚川街道ならびに野麦街道を経て輸送され、東海道方面からは三州街道・中山道、次いで甲州街道経由と推定される。その多くは干物、塩漬けなどにして送られてきたものと推定される。

二の丸御殿の台所



2 貝類

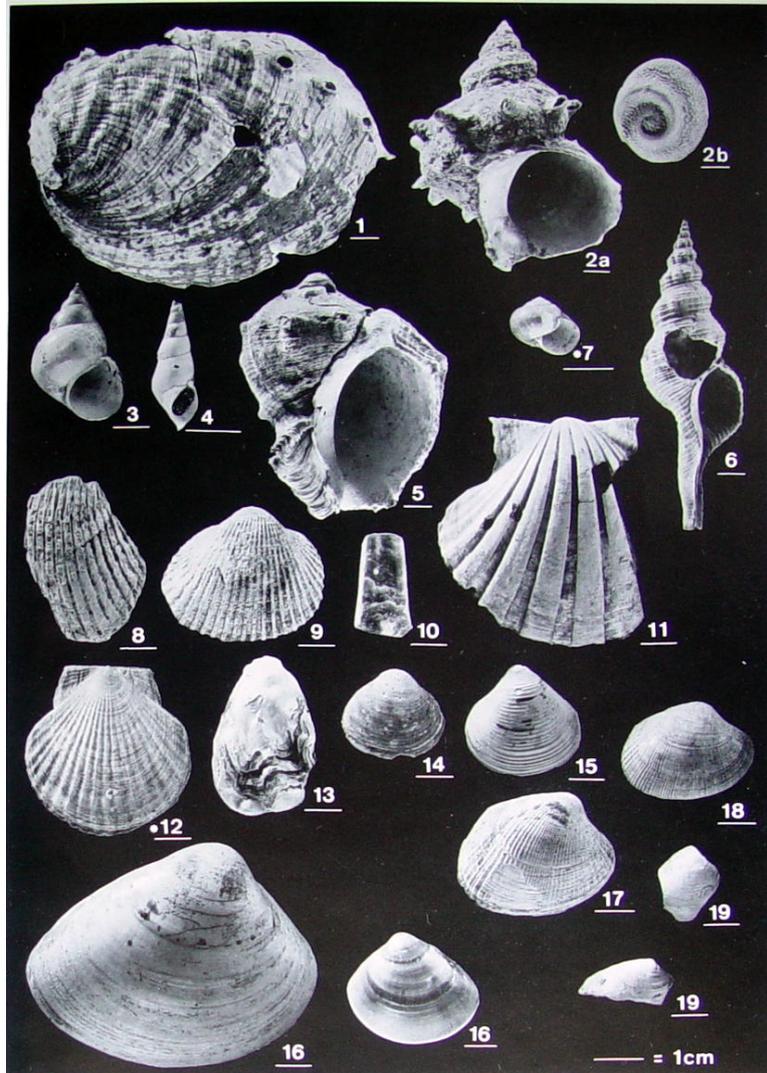
出土した貝殻は550点、そのうち89%が海産の貝であった。

蛤^{はまぐり}がもっとも多く274点、続いてメカイアワビ 78点、サザエ 56点、アカニシガイ 32点、マシジミ 30点等である。

そのほか、赤ガイ・牡蠣・カタヤガイが出土している。

淡水産の貝ではオオタニシ・マシジミがみられ、ヤマトシジミは汽水性なので海岸地方からもち込まれたと思われる。

出土貝殻中イタヤガイの殻の左側に2個の小穴がうがたれているものが出土した。これは、貝杓子^{かいじやくし}として使用されたものである。



- | | | | |
|----------|---------|------------|----------|
| 1、メカイアワビ | 2、サザエ | 3、オオタニシ | 4、カワニナ |
| 5、アカニシ | 6、ナガニシ | 7、ウスカワマイマイ | 8、アカガイ |
| 9、サルボウ | 10、イガイ | 11、イタヤガイ | 12、ホタテガイ |
| 13、牡蠣 | 14、マシジミ | 15、ヤマトシジミ | 16、ハマグリ |
| 17、オニアサリ | 18、アサリ | 19、属種不詳 | |

以上全体の構成から見て、かなり豊かな食膳が想像される。

「松本城二の丸御殿跡 発掘調査・史跡公園整備」(1985・3刊) 参照